

〈地域発信企画 in 静岡〉

地域に根ざした安心・安全な 町づくりのための取り組み

昨年度秋季大会から、開催地の日本語教育関係者、日本語学習支援の関係者が中心となって情報を発信する「地域発信企画」がスタートしました。

今回は、2018年度日本語教育学会秋季大会のテーマに合わせて、地域発信企画のテーマを「地域に根ざした安心・安全な町づくりのための取り組み」としました。静岡県内で日本語教育に関わる方々が、安心・安全な町づくりを目指してどのような実践や活動しているかをポスター、資料、実物などを通して紹介します。開催地からの発信に耳を傾け、直接相互に意見を交換することによって、参加者一人一人の実践や活動、地域を振り返り、新たな発見や刺激を得る、参加者同士の新しいつながりを創る場を提供します。来場者の皆様との活発な情報交換、意見交換を期待しています。ぜひご参加ください。

日時：2018年11月25日（日）

12：10～13：20

**会場：静岡県沼津市フラサ ヴェルデ
4階 403・404-1 小会議室**

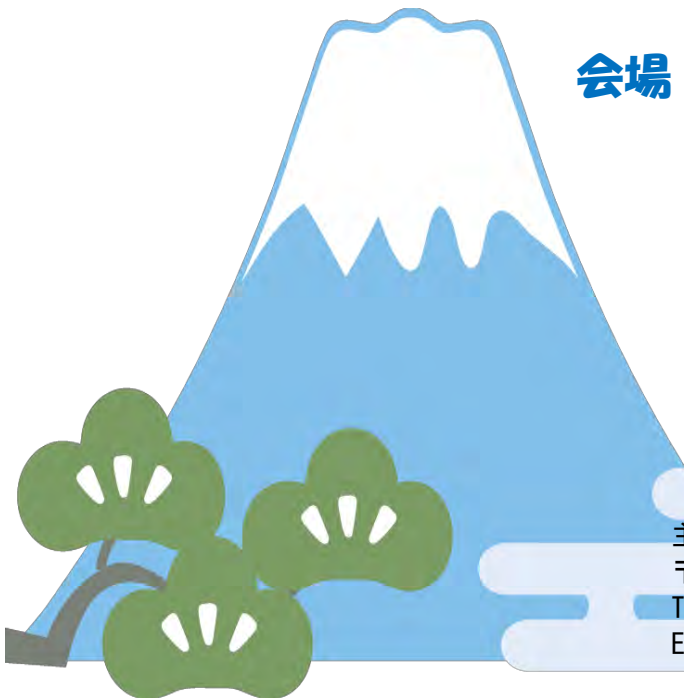
※参加費無料、事前申込不要。

**どなたでもご参加できますので、
直接会場へお越しください。**

交通・アクセスはこちら

<http://www.plazaverde.jp/html/03access.html>

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F
Tel 03-3262-4291 Fax 03-5216-7552
E-mail shibu@nkg.or.jp <http://www.nkg.or.jp>



<地域発信企画 in 静岡>

「地域に根ざした安心・安全な町づくりのための取り組み」

フーズ 1	フーズ 2	フーズ 3
◆第1部◆ 12:10~12:45 (35分)		
<p>【富士にほんごの会の取り組み】</p> <p>オリジナルテキストで伝える地震の備えと対応</p> <p>小林 明子 氏</p>	<p>【ふじのくに多文化共生ネットの取り組み】</p> <p>「地域との連携」+「外国人コミュニティとの連携」をめざして</p> <p>高澤 啓子 氏</p>	<p>【静岡県(多文化共生課)の取り組み】</p> <p>「やさしい日本語」の普及</p> <p>村川 未帆 氏</p>
<p>富士にほんごの会は平成8年から在住外国人との日本語学習や交流を通して活動して来ました。そして15年目を機に地域で暮らす人が使いやすいテキスト作りに挑戦しました。今回はその中の「地震」をテーマにした学習を取り上げて、実践例をご紹介しますと思います。</p>	<p>地域に在住する外国人の社会参加と地元への愛着、日本語学習を促し、ふだん外国人と接する機会の少ない日本人との接点をつくり、外国人と日本人が同じ地域に住む住民として安心して共生できる良好な関係を構築することができる機会の提供と、それを担う人材の発掘・育成を目的に活動しています。今回は「プチウォーク NUMAZU 再発見！」を例に、活動の紹介をいたします。</p>	<p>災害時の外国人に対する情報発信手段として、多言語によることに限界があるため、静岡県では、災害時の「やさしい日本語」の普及に努めています。今回は、その取組の一環として作成した「外国人住民のための避難生活ガイドブック『やさしい日本語』版」や「静岡県庁職員のための『やさしい日本語』の手引き」について紹介します。</p>
◆第2部◆ 12:45~13:20 (35分)		
<p>【エスコラフジの取り組み】</p> <p>日本語を使った防災の学習</p> <p>南荘 摂 氏</p>	<p>【のびっこクラブみしまと日大アモールの活動】</p> <p>ともに学ぶ防災</p> <p>石井 千恵子 氏</p>	<p>【(一社)磐田国際交流協会の取り組み】</p> <p>地域との連携で実現する安心・安全な多文化共生のまちづくり</p> <p>鈴木 ゆみ 氏</p>
<p>エスコラフジは、2000年富士市に設立されたブラジル人学校で、現在小学校1年生から中学校3年生までが通っています。県や県国際交流協会をはじめ、さまざまな組織や団体と協力し、ブラジル人児童・生徒達の防災意識を向上させる取り組みを行っており、今回はその一部をご紹介しますと思います。</p>	<p>教室に通ってくる外国人とサポートする学生が、日頃の活動の中で、地域の防災について共に学び合いました。日本大学国際協力の部のゴミ拾いと連携した防災教室と、やさしい日本語のワークショップについて発表します。</p>	<p>市民団体や行政と連携して取り組んでいる減災・防災活動をご紹介します。外国人が参加することで、地域に「外国人」や「多文化」の視点が生まれ、同時に外国人防災リーダーも育ちつつあります。また、日本語教室でも専門家を講師に招き、体験型の防災講座を取り入れて外国人の防災意識の啓発に努めています。</p>